

表1 A子の養護・訓練の課題と主な指導事項

課題	主な指導事項
身体の健康 (自己の疾病の理解と管理)	障害を進行させないための生活様式の工夫
心理的適応 (障害を克服する意欲の向上)	集団の中で役割と責任を果たすなど、積極的に行動する社会性の育成
環境の認知 (感覚の補助及び代行手段の活用)	弱視レンズの活用による学習効率の向上
運動・動作 (移動能力の向上)	校外における単独移動能力の向上
意思の伝達 (言語の表出能力の向上)	ワープロの活用による文章構成、表出能力の向上

管理ができるようにする。  
 イ 学習効率の向上及び積極的に取り組む意欲の向上を図るため、ルーペ等の弱視レンズを活用する。  
 ウ ワープロに関心を示しているため、コミュニケーション能力の向上を図り、文章構成や表出能力向上のため、ワープロを効果的に活用する。  
 エ 校外において、一人で行動できるようにするとともに、地図の活用や周囲の状況判断が適切にできるようにする。  
 オ 学校行事や生徒会活動等において、自己の役割を果たすとともにワープロで作成した資料を活用させ、集団参加能力を高める。  
 (2) 聾学校福島分校(小学部)「養護・

年間指導計画(弱視レンズ・ワープロの活用に関する部分を抜粋)

学期	月	指導事項			
		ワープロ	弱視レンズの活用	集団参加	その他
1	4	(入門指導) ・ワープロタイピング習得(ローマ字変換) ・ブラインドタッチ(ホームポジション) ・パソコン・ワープロの活用(文字の音声化)	・ディスプレイ上の文字の読み取り(学校教材用)		
	5	・簡単な文章を打つ(基礎指導)	・テキストを読み取る(弱視レンズの選定と活用)		姿勢を正しくして打つ
	6 7	・起動・印刷・保存等の基礎事項習得			
2	8	・文章を正確に打つ(応用指導)	・テキストを読み取る		
	9	・ワープロを日常生活場面で活用する	・作成文章の確認をする(弱視レンズの効果的な活用)		
	10	・文化祭資料作成(基礎指導)		作成した文化祭資料(配役係分担)を他の生徒に配布し、説明する	放課後等もワープロを活用する
	11	・ワープロを日常生活場面で活用する			
	12	・文章を速く正確に打つ(文字の拡大化)(応用指導) ・ワープロを日常生活場面で活用する ・パソコンに親しむ(ゲーム)、生徒会資料作成		作成した生徒会資料(役員選挙公示)を掲示し、公表する	自在書見台活用
3	1	(応用指導)			
	2	・ワープロで文集を作成する	・遠近両用レンズ活用	卒業文集作成	照明の配慮
	3	・手紙を書く	・適切な弱視レンズ選定(医療との連携)		

訓練」の時間の指導

《日常生活の場面を言葉で再構成させる指導》

- ① 対象児童 B子 小学部二年
- ② 障害の状況及び生育歴 未熟出産で、生後間もなく風疹症候群と診断された。以後病院言語治療室へ週一回通院し始め、生後四か月より補聴器を装着した。近隣保育所の健聴児集団で保育を受けた後、幼稚部を経て本校小学部に入學した。入学後も病院で聴力検査等を定期的に受けている。

③ 養護・訓練指導上の課題

ア 本児は、左眼の十分な活用と補聴器の早期装用により、視聴覚を比較的良く生活に活用しているため、今後、簡単な文章作成や単語の数を増やすことが課題である。  
 イ 経験している身近なことで、言葉と結びついていないため、話の内容を十分理解できず、話の一部を手がかりとして行動してしまうので改善をしたい。  
 ウ 教師とのコミュニケーションはある程度とれるものの、友達間では身振りや意思を伝達するため、トラブルが生じやすく改善の必要がある。  
 ア 経験した事を言葉で置き換えさ

表2 B子の養護・訓練の課題と主な指導事項

課題	主な指導事項
身体の健康(自己の疾病理解)(生活様式の工夫)	基本的な生活習慣の確立 自己の障害の理解
心理的適応(対人関係の形成)(障害を克服する意欲の向上)	障害の改善、克服への積極的態度
環境の認知(感覚の補助、代行手段の活用)(概念の形成)	補聴器のフィッティング、聴覚学習 生活経験の拡大
運動・動作(協応動作の向上)	左眼だけの使用なので、疲労や遠近のとらえかたに配慮した協応動作
意思の伝達(相互伝達の基礎的能力、言語の形成能力の向上)	発声発語訓練、発話、読話、読み書き 語いの拡充、語句の意味理解 言語的思考力の向上

せ、日常生活の中で活用できるように言語活動を向上させ、円滑な人間関係を育てる。  
 イ 学校の生活全体を通して、進ん



発声・発語の訓練